

事業評価シート（平成24年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	中学校理科教材等充実事業		
事業担当	学校教育部 教育総務課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	'06	6 教育施設・機能を充実する	
根拠法令等	理科教育振興法		
対象・受益者	生徒・教員	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
観察・実験を通して、生徒の問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方が養われています。		科学的な知識、技能及び態度を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、理科教材を充実にします。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標						
	実績						
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	理科教育等設備整備基準整備率				単位	%
	説明・算定式	整備金額÷整備基準金額×100					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標	58.9	59.8	60.3	60.8		
	実績	58.8	60.3	58.6			
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
	目標						
	実績						
進捗状況	①：予定どおり						
	遅れている理由						
平成24年度 の検証結果							
学校規模等に応じた整備に加え、指定寄附金を活用し、理科教材の充実に図りました。しかし、中学校においては、新学習指導要領実施に伴い、省令及び要綱が改正され、平成24年度から新たな整備基準金額が設定されたことにより整備率は下がっています。ただし、理科備品の年度末保有額は前年度末より増加しています。							
平成24年度 の検証結果	A：成果があがった						

	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
事業分析	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	理科教材の整備は市の施策として充実されるべきものと考えてます。理科教材購入費を追加配当することにより、学校の理科教材が整備されています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	文部科学省で設定している理科教育等設備基準に対し整備率が低いことから継続して教材教具の整備に努める必要があります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	科学的な知識、技能及び態度の習得と工夫創造の能力を養い、理科好きな生徒が増えるように理科教材の整備を図ります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	各学校で予算執行するため取りまとめに時間がかかるので検討が必要です。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析		理科教材の整備にあたっては、生徒数を考慮しつつ、学校間の格差が生じないように計画的に整備していく必要があります。		

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
事業内容		理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実	理科教材の充実
財源内訳	国庫支出金	1,596	235	181	200
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	1,502	3,123	2,045	0
	一般財源	5,123	5,262	3,113	3,973
事業費 (A)		8,221	8,620	5,339	4,173
執行率 (%)		93.07	78.38	96.28	
内訳	職員 (人)	0.12	0.12	0.09	0.09
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		992	973	722	716
フルコスト (A+B)		9,213	9,593	6,061	4,889

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成26年度の取組方針	学習環境の向上を図るため、計画的に理科教材を整備していきます。
課長コメント	教材・教具等の充実は、より良い教育活動を推進する上で不可欠なものであり、今後も継続して整備を進めていきます。